。

「家やまちの絵本」コンクール・大人の部 2020 年度募集にタイトル「長屋門ものがたり」を応募しました。お陰様で委員長賞を受賞しました。前編を掲載しましたのでご高覧ください。

この物語は、長屋門に関して見聞きしたことをもの語りと絵にまとめてみました。

2020.11 植木

表彰状

大人の部
住生活月間中央イベント実行委員会委員長賞

植木 秀視 殿

あなたは住生活月間中央イベント実行委員会主催第十六回「家やまちの絵本」コンクールに応募されて頂きの成績を挙られましたのでこれを賞します

令和二年十月吉日

住生活月間中央イベント実行委員会
委員長 阿部 俊則

長屋門ものがたり

―お嫁さんがくる―

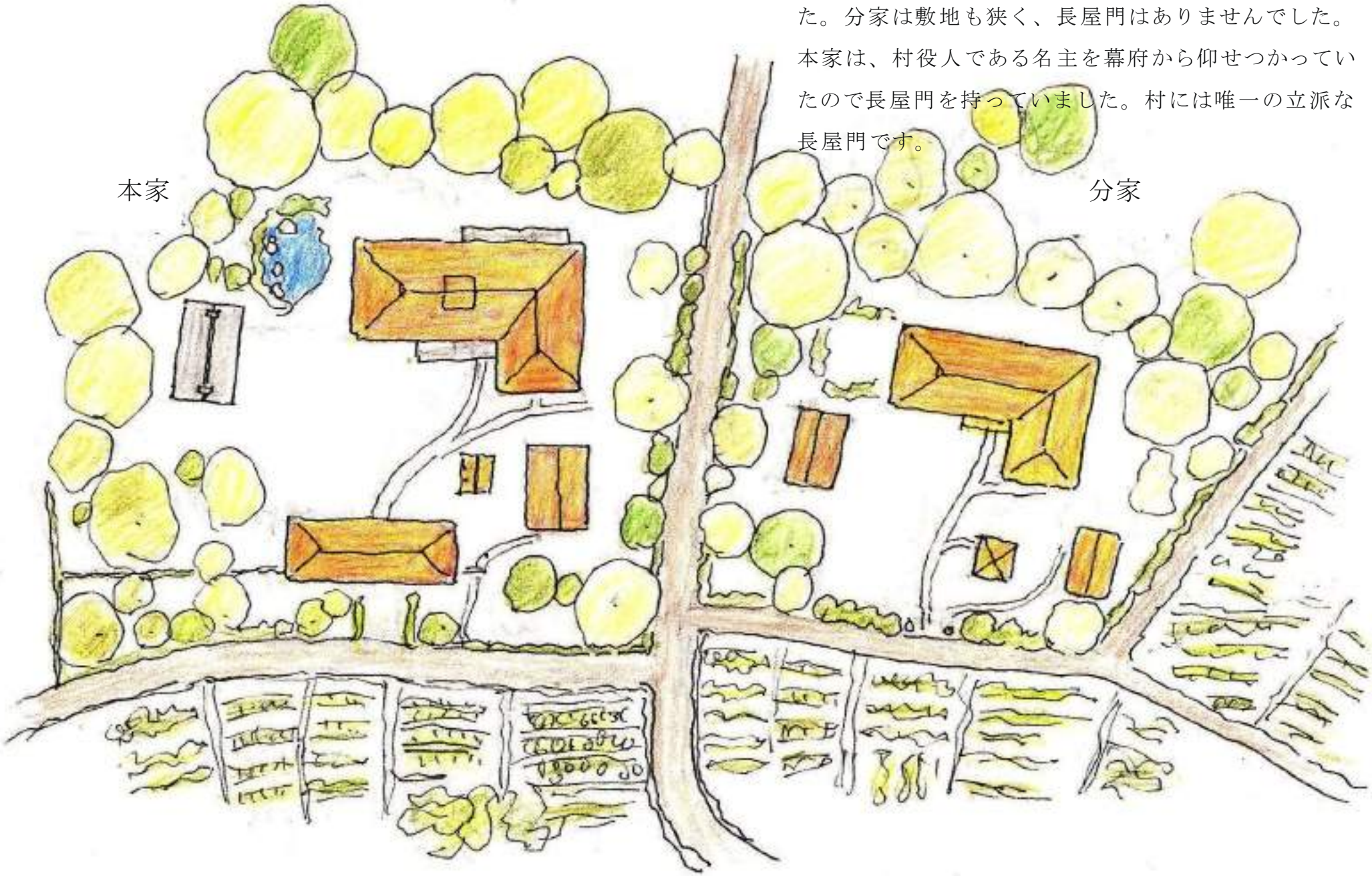
ページ

1. 表紙と目次
2. 本家と分家
3. 本家の長屋門
4. 従弟たちと遊ぶ-1
5. 同上-2
6. 本家の長屋門を眺める
7. うわさ話
8. 僕の家には長屋門が無い
9. 苗字帯刀裃長屋門
10. 長屋門の工事
11. 完成
12. 駕籠と行列
13. 祝言
14. 宴会
15. めでたし、めでたし
16 本家と分家　　おわり

文と絵：植木 秀視

2020. 9. 5

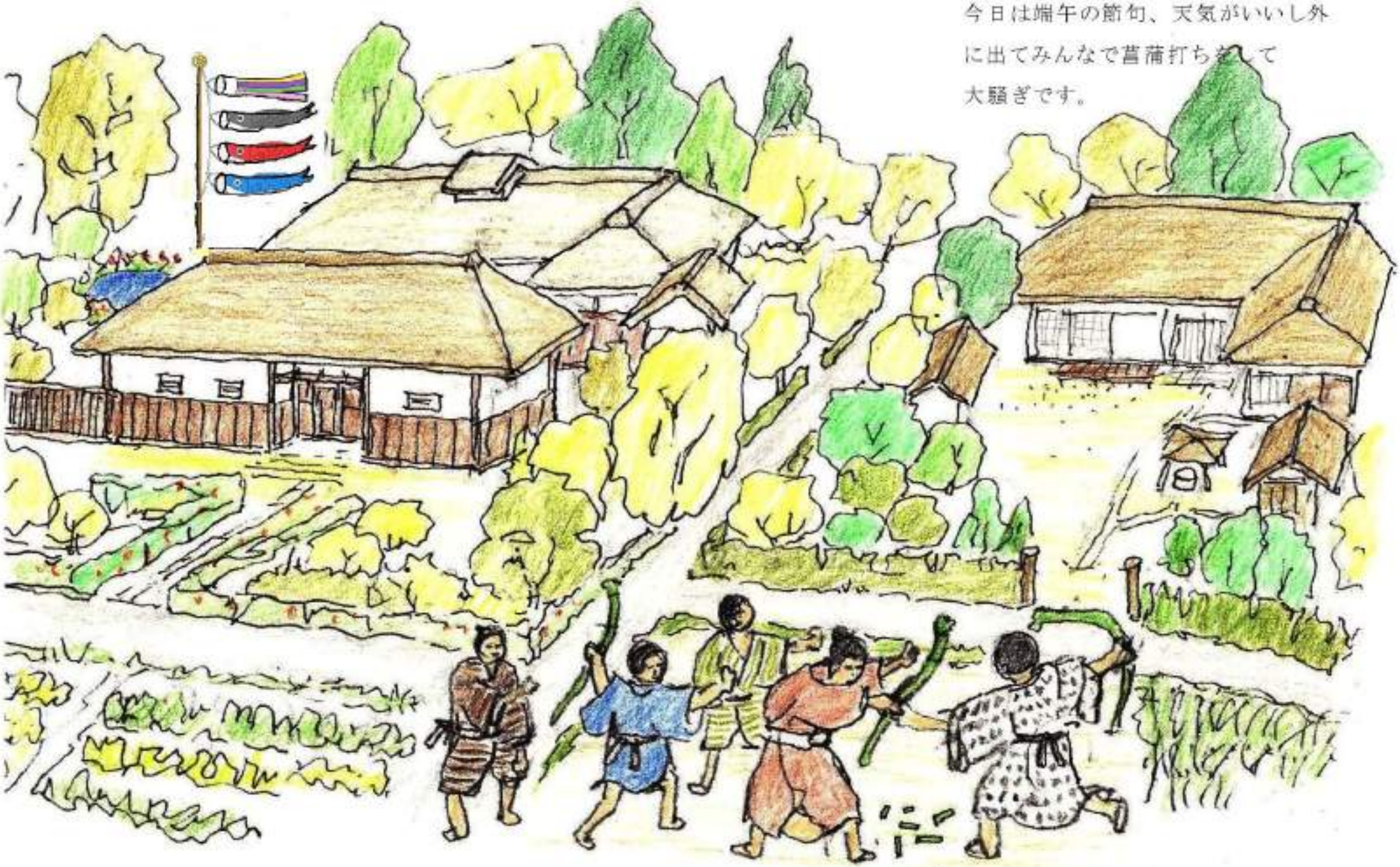
本家の屋敷はとても広く、正面には長屋門がありました。分家は敷地も狭く、長屋門はありませんでした。本家は、村役人である名主を幕府から仰せつかっていたので長屋門を持っていました。村には唯一の立派な長屋門です。



この頃、名主や村役人以外は長屋門を造ることはできませんでした。

分家の僕の家には長屋門がなく、本家の長屋門が羨ましくて、よく眺めていました。

本家の従兄弟たちや近所の友だちと、夏の暑い日や雨の日には、長屋門の真ん中にある入口でメンコや毬つきなどをして遊んでいました。


今日は端午の節句、天気がいいし外
に出てみんなで菖蒲打ちをして
大騒ぎです。

年月がたち江戸時代も終って明治時代になったとき、僕は成長し青年になっていました。

休憩時や農作業の行き帰りに本家の長屋門を見ると、農具を入れたり農作業をするのに便利そうなので、羨ましく思いました。

そんなある日、分家の僕に縁談がありました。
この地方の慣習でお嫁さんは自分の家より北の
方角にある家からもらうことになっていました。
そのお嫁さんは長屋門のある家の人でした。